

# 令和5年度 第2回学校評議員会議及び 学校関係者評価委員会

日 時：令和6年2月22日（木）14：30～16：20

場 所：会議室

出席者：石場正樹委員・岩月宏泰委員・成田克彦委員・中村博幸委員・外崎浩司委員

竹谷校長・白戸教頭・齋藤事務長・中畑教務部主任・佐藤生徒部主任・清野進路部主任・安江渉外部主任・安田図書部主任・宮本保健部主任・野呂1年次主任・岩崎2年次主任・村上3年次主任・中鉢教務部副主任

欠席者：藤公晴委員

司 会：白戸教頭

記録者：中鉢一美

配付資料 ・令和5年度 第2回学校評議員会議 各分掌報告(資料1)

・令和5年度 学校関係者評価委員会(資料2)

・各年次通信・保健だより・新聞切り抜き(資料3)

内容

## 1 校長挨拶

今年度の学校基本方針の一つとして「自己有用感の育成」を掲げた。生徒の自己有用感がどれほど高まったのかは数値として見えるものはないが、周囲と協力しながら自主的に活動することができる生徒は増えていると感じる。ICT ツールとして iPad が導入されたことも関係しており、グループワークや発表等で活用する場面が多く見られた。今後も充実した学習活動を継続していきたい。また、学校行事に関してはコロナ禍以前の形式に戻っている。来月の卒業式では4年ぶりに在校生も式場に入り、卒業生の門出を祝う。このあと、本校各主任から今年度を振り返っての反省・評価について報告があるが、忌憚のないご意見・ご助言をいただき、来年度の取り組みに生かしていきたい。

## 2 第2回学校評議員会議

・別紙資料により、各分掌の主任からそれぞれ説明があった。

### 質疑応答

(中村委員) 先月の能登半島地震を踏まえ、災害対策についてお聞きしたい。学校は緊急時の避難所としての役割も担っていると認識している。学校が閉まっているときに有事が発生した場合、学校の対応はどうなるのか。

(竹谷校長) 数年前に避難所の運営方法について教員研修を行ったことがあったが、実際の動きについては詳細まで決まっていないのが現状である。今後のための検討事案とする。

(宮本主任) 本校代行員が近所に住んでおり、有事の際は本校職員に先んじて開錠し、その後市役所職員が来校した上で災害対応をするという話が以前出たことがある。有事対応の物品は学校に現在常備されている。

(岩月委員) 来年度から新しい教育課程に完全移行するが、現3年生（旧課程）と現1・2年生（新課程）との間に評価方法の違いはあるのか。

(白戸教頭) 5段階評価については今までと変わらない。新課程では3つの観点による「観点別学習状況の評価」が導入されている。

(清野主任) 観点別評価が5段階評定に影響を与える仕組みになっていることにより、学校にもよるが生徒の頑張りを前向きに評価すると5や4が多いということもあり得る。

### 3 学校関係者評価委員会

- ・中畑教務主任から、学校評価アンケート（生徒、保護者、教員）についての報告
- ・各分掌及び年次主任から、経営計画の自己評価についての報告

#### 意見及び質疑応答

(石場委員) 先生方の取り組みを聞いて、残業等の負担が多いのではと気になったので、くれぐれも健康に留意して頑張ってください。2年次から修学旅行とそれにまつわる感染症の話があったが、大学受験を控えている3年生を受け持つ先生方にとって新型コロナやインフルエンザの存在は気がかりかと思う。何とか受験を無事乗り切ってくれることを願っている。

(岩月委員) 各主任の報告から今年度の取り組みと次年度の課題が具体的によく理解できた。改善策が功を奏してくれればと思う。生徒の積極性についての言及がいくつかあったが、私も大学で学生の理解度を確認するための質問を投げかけることがあるが、内容を理解していなくても思ったことをなかなか表現してくれないと感ずることがあり、こればかりは試行錯誤で何とかしていくしかないと思っている。

(成田委員) 令和6年度入学者選抜の志願者倍率が1.0倍であったが、3年前は定員割れだったと記憶している。卒業生の一人として青森東高校とはどのような高校なのかということを考えてとき、思い当たる言葉が出てこなかった。先生方は生徒たちのバックアップを手厚く行っている印象を持つが、他校との差別化をどう図るか。公立高校ゆえ、なかなか難しい側面もあるとは思うが、青森東高校はこういう学校だということをもっと分かりやすい言葉でアピールする必要があるのではないかということを感じた。

(中村委員) 昨年7月に私の町会に青森東高校のステッカーが貼られた自転車が放置されていたため、在校生のものか卒業生のものかを問い合わせたが、その後連絡がなかった。参考までに、その年の各年次のステッカーは何色かを教えてもらえるとありがたい。

(外崎委員) 学校ホームページや生徒・保護者向けの情報配信(Classi)により、我々保護者にとっては学校の様子や連絡事項が分かりやすく、とても良い取り組みだと思っている。保健だよりも役立つ情報が載っており、ぜひこういう情報は生徒たちにもしっかりと見てもらう工夫をしてもらいたい。報告を聞いて一つ気になった点は、生徒の携帯電話の使い方に関してマナーが良くないことがあるとのことだが、全校での統一した基準はあるのか。

(村上主任) 授業時間帯は携帯電話を自分のロッカーに入れて教室には持ち込まないなどのルールを入学時に伝えている。

(外崎委員) 保護者アンケートの意見に「独り立ちする生徒が大半なので、家庭科の調理実習をたくさんやってほしい」という意見があった（それに対する本校の回答は「カリキュラム上増やすことは難しいが、調理実習の内容を検討していきたい」）。渉外部のPTA研修活動等とタイアップして行うことも可能ではないか。他にも「野球応援、芸術鑑賞、体育祭等で移動が必要な行事では高校発着で希望者を募ってバスを出してほしい」という意見もあったが（本校の回答は「近年バス料金が高騰しており、行事の度に数台借り上げるのは予算的に厳しい」）、本校後援会に協力を仰ぐなど、協力団体の存在も視野に入れて改善を図ってもらえればと思う。

#### 4 校長から

中村委員からご指摘のあった避難所の件については、有事の際の対応をこれからしっかり検討していきたい。成田委員からご指摘のあった本校の特徴については、以前に市内他校での指導も行う本校勤務のアメリカ人外国語指導助手に学校ごとの生徒の違いを尋ねたことがあり、A校の生徒は元気である、B校の生徒は堂々としている、本校生徒はシャイであるとの感想を持っていた。先日、英語研究同好会の生徒に加えて希望者を募り、台湾の高校生とオンラインでSDGsに関する意見交換を行ったが、とてもいい刺激になったようだ。これらのことから、校内に留まらず外部とのつながりを持った活動を増やし、堂々と外に出ていける生徒を育成できればと考えている。教員の労働環境については、学校のDX化ということでデジタル教材・デジタル採点システムを今後導入する流れになっていく。令和6年度から県立学校では勤務時間外の留守番電話対応も始まる。教員の負担軽減と同時に、生徒・保護者の負担のことも考え、学校の取り組みを進めていきたい。

委員からの御意見に対して、校長より感謝の言葉があり、第2回学校評議員会議及び学校関係者評価委員会を終了した。

以上